

令和7年度

シ ラ バ ス

学 習 案 内



第 1 学 年



この冊子「学習案内（シラバス）」では、自分が学んでいることの全体像を知ることができます。今年度は各教科の学習の基礎基本、マイ勉の心得・方法、年間行事予定表等も入っていますので、いつも手元に置いて学習の手引きとして利用もでき、また自主的に学習を進めることもできます。一人一人の生徒への教師の願いや期待も読み取って、この一年間の学習に励みましょう。

「シラバス」とは： 辞書によると syllabus の語源は、ギリシャ語の「羊皮紙、文書の内容、目次」を表す sillybos から来たもので、「講義などの摘要、概要、要旨、教授細目・・・」などと訳されています。学校では一般的には「授業の目的、内容、スケジュール、学習要件などを提示したもの」という意味に使われています。本校では「年間学習案内」という意味を持つ言葉として「シラバス」を使います。

熊谷市立別府中学校

電 話： 048-532-6004

FAX： 048-533-2308

URL <http://www.kumagaya-beppu-j.ed.jp/>

メールアドレス：j-bepp21@kumagaya-beppu-j.ed.jp

Contents

1. 別府中の基礎基本
2. 別府中「授業の心得」
3. 別府中授業の約束とマナー確認シート
4. マイ勉の心得
5. マイ勉の内容と方法
6. 各教科のシラバス
(国、社、数、理、英、音、美、体、技、家、道、特活、総合)
7. 別府中当たり前の20ヶ条
8. 別府小・中の道標

別府中の基礎基本



みなさんの中に、こんなことで不安になっている人はいませんか。
「中学生になったら何を勉強したらいいんだろう？」
「今度〇年生に進級するけれど、どんな内容の勉強が新しく入ってくるんだろう？」

別府中では、みなさんに「絶対にこの力をつけてほしい」という各教科の基礎的・基本的な知識・技能を精選し、「別府中の基礎基本」を作りました。

みなさんも、授業の中で学んだあとの復習として、または予習として家庭学習で取り組んでみましょう。

	基礎・基本の内容	身につけ方・評価の方法
国 語 科	1 (古文) 古文の冒頭部分をすらすら暗唱できる。 第1学年「竹取物語」冒頭 第2学年「平家物語」冒頭 「枕草子」冒頭 第3学年「おくのほそ道」冒頭 2 (文法) 言葉の単位「文節と単語」を理解し、「文の成分」「品詞」をそれぞれ見分けることができる。 3 (書くこと) 第1学年「説明文」・図表などを用いた説明や記録の文章を書くことができる。 第2学年「意見文」・自分の立場を明確にして、意見文を書くことができる。 第3学年「批評文」・関心のある事柄について批評する文章を書くことができる。 4 (漢字) 校内漢字検定 十級 (小学校一年程度) → 準二級 (中学校三年程度)	○身につける方法 ・暗唱は正確に書けるまで練習するとよい。 ・教科書を何回も読む。 ・ワークを繰り返し家庭学習する。 ☆評価の方法 ・中間・期末テスト ・ワーク提出 ・スピーチ ☆年間6回校内漢字検定があります。 1年生 8級 2年生 6級 3年生 4級の合格を目指します。
数 学 科	○本校の数学科では、以下の4つのそれぞれの領域において、次に挙げる基礎的・基本的な内容の習得を目指す。 数と式 【1年】 ・正・負の数の計算ができる。 ・文字を含んだ式の計算と一次方程式を解くことができる。 ・素数を積で表すことができる。 【2年】 ・式の値を求めることができる。 ・文字式を使って説明できる。 ・特定の文字について解くことができる。 ・連立方程式を解くことができる。 【3年】 ・根号を含む式の計算ができる。 ・式の展開ができる。 ・因数分解ができる。 ・二次方程式を解くことができる。 【共通】 ・方程式を立てて問題を解くことができる。 図形 【1年】 ・おうぎ形の弧の長さと、面積を求めることができる。 ・立体の体積と、表面積を求めることができる。 ・基本の作図ができる。 【2年】 ・図形の性質を利用して角の大きさを求めることができる。 ・図形の証明問題を解くことができる。	○身につける方法 ・授業中のノートへの書き込みの充実。 ・毎回の授業の復習をする。(教科書、ノート、ワーク、小テスト等) ・教科書、ワークの問題の繰り返し学習をする。(リトライワークの活用) ワークのA問題を確実に習得する。 ☆評価の方法 ・ノート、ワーク、自己評価カード、授業態度、宿題の提出状況、忘れ物の有無、定期テスト、単元テスト、その他のテストの状況等を総合的に評価する。 ☆年6回、校内数学検定を実施します。 1年生 6級 2年生 4級 3年生 2級以上の合格を目標とします。

	基礎・基本の内容	身につけ方・評価の方法
数 学 科	【3年】 ・円周角の大きさを求めることができる。 ・平行線と線分の比を利用して線分の長さを求めることができる ・直角三角形の辺の長さを求めることができる。 関数 【共通】 ・どのような関数関係になっているかわかる。 ・変化の割合を求めることができる。 ・座標を正しく読むことができる。 ・関数のグラフを読んだりかいたりすることができる。 ・関数の変域を求めることができる。 ・グラフの交点の座標を求めることができる。 データの活用 【1年】 ・代表値を求めることができる。 【2年】 ・様々事象の確率を求めることができる。 ・箱ひげ図を読み取ったり表したりすることができる。 【3年】 ・標本を調べて母集団の性質を求めることができる。	
社 会 科	【歴史】 ・日本の歴史の時代区分ができる。 ・歴史上の主要な人物とその業績がわかる。 ・主な出来事背景とその結果から、歴史の大きな流れを説明できる。 ・各時代の文化の特徴がわかる。 【地理】 ・地球儀や地図の見方、使い方がわかる。 ・8地方区分と都道府県名とその位置がわかる。 ・世界の主要な国々の名前と位置がわかる。 【公民】 ・日本国憲法の主要な条文が正確に読める。 ・三権の抑制と均衡のしくみについて説明できる。 ・財政のはたらきを説明できる。 ・現代の国際的な問題を説明できる。	○身につける方法 ・教科書の重要語句（太文字）ノートを作る。 ・授業ノート・プリントをまとめ直す。 ・歴史的事象が起こった場所、資源の分布など白地図でまとめる。 ・地図や年表をよく見るところに貼り、こまめに確認する。 ☆評価の方法 ・小テスト、定期テスト ・授業に取り組む姿勢 ・レポートなどの提出物
理 科	【1年】 『いろいろな生物とその共通点』 ・生物の体の共通点と相違点を見だし、生物を分類できる。 ・ルーペや顕微鏡を正しく使うことができる。 『身のまわりの物質』 ・物質の状態変化の規則性について説明することができる。 ・気体の性質をまとめ、説明することができる。 ・ガスバーナーを正しく使うことができる。 『身のまわりの現象』 ・光の性質について説明することができる。 ・凸レンズを通る光の道筋を作図することができる。 ・音の正体や伝わり方などの性質を説明することができる。 ・力の性質について説明することができる。	○身につける方法 ・授業で配られる「ワーク」などを繰り返し活用する。 ・ノートや教科書を活用して、重要語句を身につける。 ☆評価の方法 ・定期テスト ・授業に取り組む姿勢 ・レポート ・提出物

『大地の変化』 ・火山のちがいがから成り立ちや火山噴出物について説明できる。 ・地震の発生と伝わり方について説明できる。 ・地層の特徴と地層からわかること、地層の広がりについて説明できる。	
---	--

	基礎・基本の内容	身につけ方・評価の方法
理科	【2年】 『化学変化と原子・分子』 ・基本的な原子記号・化学式・化学反応式を書くことができる。 ・質量保存の法則を説明できる。 『生物のからだのつくりとはたらき』 ・動物細胞と植物細胞のちがいを説明できる。 ・植物のからだのつくりと動物のからだのつくりを説明できる。 ・感覚器官についてまとめそのはたらきについて説明できる。 『天気とその変化』 ・天気図に書かれた記号を読むことができる。 ・雲のでき方を、上昇気流・気圧・気温・露点・飽和水蒸気量という語句を用いて説明できる。 ・日本の天気の特徴についてまとめることができる。 『電気の世界』 ・オームの法則を用いて、基本的な回路の電流・電圧・抵抗を計算により求めることができる。 ・電力と発熱量の関係を説明できる。 ・回路図を描くことができる。 ・磁界についての法則を説明できる。 【3年】 『化学変化とイオン』 ・電離した状態をイオン式で表すことができる。 ・電池の原理を説明することができる。 ・中和について「酸・アルカリ」という語を使い説明できる。 『生命の連続性』 ・細胞分裂の過程を説明できる。 ・遺伝の規則性からメンデルの法則について説明できる。 『運動とエネルギー』 ・記録タイマーのテープから、瞬間の速さ、平均の速さを求めることができる。 ・振り子を例にして、力学的エネルギーの保存を説明できる。 ・慣性の法則を説明できる。 ・仕事と仕事率を計算によって求めることができる。 『地球と宇宙』 ・自転と公転について説明できる。 ・太陽系の天体の種類を説明できる。 ・日周運動と年周運動から、天体の見える方向を説明できる。 ・月の満ち欠けについて説明できる。 『地球と私たちの未来のために』	○身につける方法 ・授業で配られる「ワーク」などを繰り返し活用する。 ・ノートや教科書を活用して、重要語句を身につける。 ☆評価の方法 ・定期テスト ・授業に取り組む姿勢 ・レポート ・提出物

- ・地球の自然環境や科学技術を知り、未来の社会のために、私たちは社会にどのようにかわればよいか考えることができる。

	基礎・基本の内容	身につけ方・評価の方法
英語科	1年生 (1) 自分の名前をローマ字で書くことができる。 (2) 基本的な用語を用いて自己紹介ができる。 (3) 複数の物を適する形で表現できる。 (4) 家族や友人などを基本的な用語を用いて紹介することができる。 (5) 過去にあったことや行ったことを一般動詞を用いて表現できる。 (6) 自分や家族、友人ができることを表現できる。 2年生 (1) 不規則な変化をする一般動詞を使い、肯定文、否定文、疑問文の使い分けとその応答できる。 (2) 過去の状態や気持ちを be 動詞の過去形を使って表現できる。 (3) 予定や未来のことを表現できる。 (4) 自分のやりたいことやなりたい職業を表現できる。 (5) 行動の目的を表現できる。 (6) 複数の物を比較した表現を使い分けすることができる。 (7) 「～される」や「～された」のような行為を受ける側の立場を表現できる。 3年生 (1) 自分や家族、友人等が経験したことを表現できる。 (2) 自分や家族、友人等が継続して行っていることを表現できる。 (3) 自分や家族、友人等が既に完了した行為を表現できる。 (4) 関係代名詞の使われた英文が理解できる。	○身につける方法 ・単語を覚えるまで書く。 ・教科書を暗唱できるくらい声を出して読む。 ・教科書の基本文を理解して自分でも書く。 ・ノートに自己表現として単元で習ったことをオリジナルの英文で書く。 ☆評価の方法 ・中間、期末テスト ・単語テスト ・パフォーマンステスト ・スピーキングテスト ・ノート、ワークの提出
音楽科	【第1学年】 ◎課題曲の中から1曲選曲し、みんなの前で独唱できる。 ・課題曲 「夢の世界を」 「主人は冷たい土の中に」 「校歌」 ◎アルトリコーダーの基本の運指（低ファ～高ド）をマスターし課題曲を演奏できる。 ・課題曲 「喜びの歌」 「かっこう（A1）（A2）」 「オーラ リー」 「アニー ローリー」 「ラヴァース コンチェルト（A1）」 【第2学年】 ◎「翼をください」の自分のパートをマスターし、混声三部合唱できる。 ◎ギターの基本のコード（C G7 F Em Am）をマスターし、課題曲を演奏できる。	○身につける方法 【歌唱】 評価項目 ・姿勢 ・口形 ・発声 ・ハーモニー ・パート練習にしっかりと取り組む。 ・全体練習の中で恥ずかしがらずに大きな声で歌う。 【器楽】 評価項目 ・ARの運指 ・ギターのコード

	・課題曲 「カントリー ロード」 「let it be」	・実技テスト ・くり返し練習する。
	基礎・基本の内容	身につけ方・評価の方法
音楽科	【第3学年】 ◎「花」をみんなの前で独唱できる。 ◎琴の基本奏法をマスターし、課題曲を演奏できる。 ・課題曲 「さくら さくら」	☆評価方法 ・相互評価 ・パート評価 ・琴の奏法 ・実技テスト
技術科	1 技術分野1年 (1) 生活に必要な基礎的知識や技術を身につけ、CDラックができるようにする。 ・さしがねを正しく使い、材料へのけがきを正確にできるようにする。 ・のこぎりを正しく使い、正確なのこぎりびきができるようにする。 ・げんのうを正しく使い、正確な釘打ちができるようにする。 (2) コンピュータの基本操作を身につける。 ・ワード・パワーポイントを使い、アルバム作成ができるようにする。 2 技術分野2年 (1) エネルギー変換のしくみを理解し、簡単な作品を製作できるようにする。 ・エネルギー変換を利用したものづくりができる。 (2) 作物を栽培して生活に生かせるようにする。 ・地域の環境に目を向けた栽培ができるようにする。 ・作物の栽培ができるようにする。 3 技術分野3年 (1) 身の回りにあるコンピュータが使われている機器を調べ、制御について理解する。 ・コンピュータの構成を理解し、目的に合ったプログラムでロボットを制御できるようにする。 (2) 情報モラルのある快適な生活をくふうできるようにする。 ・これからの高度情報通信社会について理解する。	○大切なポイント ・材料の基準面とさしがねをしっかりと密着させる。 ・切断する材料によってひく角度を変える。 ・釘に正確に当てる。 ・各ソフトウェアの基本的な機能を使い慣れる。 ・ペーパークラフトによる実習を行う。 ・栽培の手順に従って、栽培を行う。 ・コンピュータの計測・制御の基本を良く理解し、実施のロボットを動かしてみる。 ・情報モラルについて現状を踏まえた学習を行う。
家庭科	自立を目指し、人や物と関わりながら学ぶ 1 食生活 第1学年 健康的な食生活について理解し調理ができる 第2学年 伝統的な食文化を知り郷土料理を作ることができる 2 住生活 第1学年 健康で安全な住まいについて考え、快適な生活を工夫できる 3 衣生活 第2学年 日常着の活用、手入れの方法を理解する 布を用いた作品の製作を通して技能を磨く 4 家族・家庭生活 第2学年 自分の成長（自分史）を知り、家庭や地域の関わりや幼児の生活について学ぶ 第3学年 身近な材料でおもちゃを製作し、幼児とふれあい成長について考える	○身につける方法 ・実習・実験を通して、体験的に学習する。 ・家庭でのお手伝いを通して、実践力の向上に努める。 ・実生活と知識を結びつけて考え、自立する力を身に付ける ☆評価方法 ・期末テスト ・授業・実習・実験の

5 消費生活と環境 第3学年 商品の選択、購入について理解を深め、消費者としての自立を促す		取り組みの様子 ・プリント・ノート・作品の提出
	基礎・基本の内容	身につけ方・評価の方法
保健体育科	体育編 (体づくり運動) 自己の体力を知り、高める方法を理解し実践することができる。 (陸上) 短距離走では、正しいフォームで全力で走り抜けることができる。 長距離走では、自己の体力を最大限に発揮し、ペースを考え走り抜けることができる。 (器械運動) 壁倒立が10秒以上でき、マット運動では倒立前転がスムーズにできる。 跳び箱では、切り返し系・回転系の技ができる。 (球技)「バレーボール、バスケットボール、ソフトボール、サッカー」 各種目のルールや競技方法を理解し、基本的な技能を応用してゲームや試合ができる。 (武道)「柔道」 礼儀作法やルールを理解し、基本技を身に付けることができる。 保健編 (1年)「健康な生活と病気の予防」「心身の発達と心の健康」について、考えたり、調べたりしながら、正しい知識を身に付けることができる。 (2年)「健康な生活と病気の予防」「傷害の防止」について、考えたり、調べたりしながら、正しい知識を身に付けることができる。 (3年)「健康な生活と病気の予防」・「健康と環境」について、考えたり、調べたりしながら、正しい知識を身に付けることができる。	・腕の振り、足の運び方 スタートダッシュ ・中間疾走の姿勢 ・フィニッシュまでをしっ かり意識する。 ・走る姿勢、ペース配分 <u>評価</u>・タイムの伸び ・強く踏み切り、体をま るめてバランスを意識 して着地する。 ・ボールに数多く触れる。 周囲をよく見る。ルー ルをしっ かり理解する。 <u>評価</u>・個人技能がゲーム に生かされているか。 ・各礼法を覚える。 <u>評価</u>・礼法や基本技をみ につけている。 ・教科書・学習カードを 使って各内容をしっ かり 理解する。 <u>評価方法</u> ・定期テスト
美術科	【第1学年】 ○文字のデザイン「レタリング」 (1) 明朝体が描ける。 (2) ゴシック体が描ける ○スケッチ 見たり、想像したりしたことをスケッチできる。 ○彩色 (1) アクリル絵の具の使い方を身につけることができる。 (2) 混色の知識を深めることができる。 【第2学年】 ○「あかりのデザイン」 カッターやペンチなど安全に使用することができる。 表現に合った素材を選択できる。 【第3学年】 ○「光に気持ちを込めて」 ・写真を見てカメラの高さ(視点の位置)を理解できる。 ・自分の思いを、様々な描写方法を選択し表現できる。	○身につけ方 ・正方形の枠の中に定規 を使って書く。 ・横線、縦線の太さに注 意する。 ・誰に、何を伝えたいの か考える。 ・比較して物を見るよ うに意識する。 ・正しい使い方を理解し、 けがをしないよう心が ける。 ☆評価の方法 ・作品を完成させ必ず提 出する。

別府中「授業の心得」

熊谷市立別府中学校

学力向上の第一歩は「授業を大切にすること」心

時間

- 次の授業の準備をしてから休み時間にしよう。
- チャイムと同時に授業開始。
- 授業の最後まで集中。



態度

- 忘れ物をしない。
- 学手、話合いなど積極的に！
- 後片付けを忘れずにする。
(机・いすの整理整頓、ゴミはゴミ箱へ)



発言

- 始め、終わりのあいさつは大きな声でしっかりとしよう。
- 呼ばれたら、「はい」と返事をして立とう。
- はっきりと聞き取りやすい声で発表しよう。



別府中授業の約束とマナー

年 組 番 氏名

※自己評価は5段階で記入（5→8割以上できた、4→8割できた、3→半分できた、2→できないことの方が多かった、1→全くできなかった）

		4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
時 間	1	次の授業の準備をしてから休み時間にする。										
	2	チャイムと同時に授業開始。										
	3	授業の最後まで集中。										
態 度	4	忘れ物をしない。										
	5	拳手・話し合いなど積極的に！										
	6	後片付けを忘れずにする。(机・イスの整理整頓、ゴミはゴミ箱へ)										
発 言	7	始め、終わりのあいさつは大きな声でしっかりする。										
	8	呼ばれたら「はい」と返事をして立つ。										
	9	はっきりと聞き取りやすい声で発表する。										

マイ勉の心得

- 学習中は携帯、テレビ、パソコン、ゲームの電源は切っておく。
- マイ勉強期間では、クラス全員で100%を目指そう。

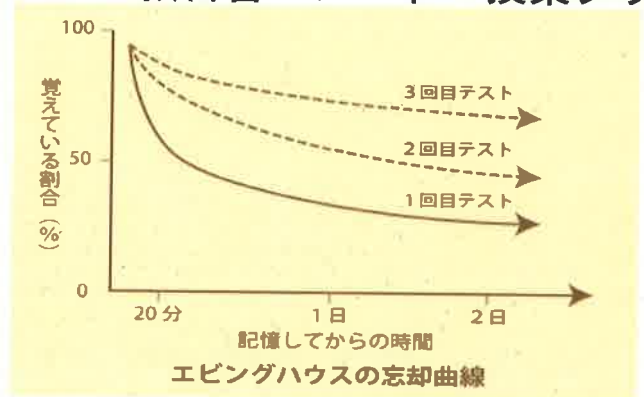
マイ勉のやり方

①授業の予習をする。

- ・あらかじめ自分で調べたり、考えたりしてから授業に臨めば課題意識が高まり、授業にも集中できます。
(例:英語→単語練習、国語→意味調べ)

②授業の復習をする。

- ・その日のうちに授業を思い出しながら、教科書・ノート・授業プリントを使って学習すると、習ったことを定着させるのに効果的です。



③ワークを有効活用する。

- ・ワークは、学習のポイントが整理されています。テスト前だけではなく、ワークを毎日こつこつ学習することが大事です。
- ・ワークの問題を1回目はノートにやる。2回目はワークに書きこむ。3回目は間違えたところを重点的にやる。等、繰り返し取り組もう。

④定期テストを目安に学習計画を立てる。

- ・テスト範囲とテストまでの日数を考えて、何日に何をするか計画しよう。
- ・計画どおりに学習が進められているかチェックをしよう。

⑤わからないことをそのままにしない。

- ・問題に取り組んでわからなくなったときは、教科書を読んでわかるところまで戻ってやり直そう。学校で先生や友達に質問しよう。

⑥時間の使い方を工夫しよう。

- ・得意教科は効率的に、不得意教科はじっくり時間をかけてやろう。
- ・決めた時間で問題に取り組むトレーニングをしよう。

教科	学 習 内 容 ・ 方 法
国語	○教科書を音読しよう。 ・文学的文章や説明的文章は、場面を決めて読もう。 ・詩、短歌、俳句、古典は、繰り返し読んで暗唱を目指そう。 ○読めない漢字やわからない語句は、辞書を使って調べよう。 ○漢字検定の勉強に計画的に取り組み、合格を目指そう。(全員が1年生8級、2年生6級、3年生4級の合格を目指します。) ○ワークやプリントを活用して、授業の予習・復習をしよう。
数学	○授業の復習が基本。その日に習った計算をできるようにしたり、学習内容を覚えたりして、確実に基礎・基本を身につける。 ○教科書・ワークを中心に問題をノートに解く。2回、3回と繰り返し行い一つ一つをしっかりと理解する。また、丸付けも必ず行う。 ○数学検定の勉強に計画的に取り組み、合格を目指そう。(全員が1年生9級、2年生7級、3年生5級の合格を目指します。)
社会	○教科書を読み、授業の流れ・内容を思い出しながら、授業のノートやプリントを別のノートにまとめ直す。(「写す」のではなく、頭の中を「整理」する) ○「頭の中の整理」が終わってから問題集を解き、できなかったところはもう一度教科書やノートに戻って復習し直す。 ○地理は地図、歴史は年表、公民は条文やしくみ図で重要事項をつかむ。
理科	○授業内容の復習をしっかりと行う。 ○教科書を読みなおして、ワークシート等を活用して振り返りながらノートにまとめる。このときに、頭の中を整理しながら、重要語句や大切な実験結果などをまとめる。 ○重要ポイントノートを作成して、ポイントをまとめる。 ○教科書や理科ノートの問題、ワークなどできるだけ多く問題を解く。 ○語句だけでなく、なぜそう考えたのかなどの自身の考えをまとめておく。
英語	○教科書の音読を繰り返す。読めない単語があったら丸を付けておき、次回先生に確認する。どんな内容なのかも頭に思い浮かべる。 ○新しく出てきた単語を書けるようになるまで練習する。発音しながら書く。最後に自分で小テストをし、書けなかった単語は再度練習する。 ○教科書のセクションが終わったら、ワークの問題を自分でやる。答え合わせをして、できなかったところを確認する。 ○英語検定の勉強に計画的に取り組み、合格を目指そう。(全員が1年生10級、2年生9級、3年生8級の合格を目指します。)

【国 語 科】 1年シラバス

別府中学校

1 国語科の目標

- (1) 目的や場面に応じ、日常生活にかかわることなどについて構成を工夫して話す能力、話し手の意図を考えながら聞く能力、話題や方向をとらえて話し合う能力を身につけさせるとともに、話したり聞いたりして考えをまとめようとする態度を育てる。
- (2) 目的や意図に応じ、日常生活にかかわることなどについて、構成を考えて的確に書く能力を身につけさせるとともに、進んで文章を書いて考えをまとめようとする態度を育てる。
- (3) 目的や意図に応じ、様々な本や文章などを読み、内容や要旨を的確にとらえる能力を身につけさせるとともに、読書を通してものの見方や考え方を広げようとする態度を育てる。

2 具体的な目標

- (1) 調べて分かったことや考えたことなどに基づいて説明や発表をしたり、それらを聞いて意見を述べたりすることができる。
- (2) 社会生活の中の話題について、司会や提案者などを立てて討論を行うことができる。
- (3) 表現の仕方を工夫して、詩歌を作ったり、物語の続きを書いたりできる。
- (4) 多様な考えができる事柄について、立場を決めて意見を述べる文章を書くことができる。
- (5) 書いた文章を読み返し、文や文章を整えて説得力のある文章にすることができる。
- (6) 社会生活に必要な手紙を書くことができる。
- (7) 詩歌や物語などを読み、内容や表現の仕方について、感想を交流することができる。
- (8) 説明や評論などの文章を読み、内容や表現の仕方について、自分の考えを述べることができる。
- (9) 新聞やインターネット、学校図書館等の施設を活用して得た情報を比較することができる。
- (10) 作品の特徴を生かして朗読などをし、古典の世界を楽しむことができる。
- (11) 小学6年までに学習した常用漢字の読み書き、1学年で学習した漢字を読むことができる。
- (12) 字形を整え楷書で文字を書き、漢字の行書の基礎的な書き方を理解して書くなどできる。

3 【国語科の評価の観点と評価の方法】

観 点	具体的な評価の観点	評価方法
○知識・技能	・伝統的な言語文化・言葉の働きや特徴 ・語句語彙・言葉のきまり・漢字・書写など	プリント・ワーク 小テスト・定期テスト
○思考力・判断力・表現力等	・話題設定や取材・話すこと ・聞くこと・話し合うこと	スピーチ・聞き取りテスト 授業時の発言等
	・課題設定や取材・構成・記述 ・推敲・交流（読み合う・手紙）	作文・小作文 小テスト・定期テスト
	・語句の意味の理解・文章の解釈 ・自分の考えの構成・読書と情報収集	テスト・授業時の学習課題への取り組み
○主体的に学習に取り組む態度	・学習課題に進んで取り組もうとする ・言語生活を豊かにしようとしている	授業の態度・宿題 プリント・ワーク

4 国語科の家庭学習のポイント

- ① まず、予習が大切です。次の時間に行う教材の漢字や語句の意味を調べます。
- ② 次に、ワークやノートのまとめ直しをして授業の復習をします。漢字も確実に覚えましょう。
- ③ 最後に、問題集の中の同じジャンルで異なる文章の問題を解いてみましょう。
- ④ ふだんから、活字に慣れることが必要です。新聞のコラム欄を読み感想を書きましょう。

5 【使用教材】

教科書 教育出版 『伝え合う言葉』

副教材 『漢字の反復練習』（浜島書店）/ 『よくわかる国語の学習1』（明治図書）

『国語便覧』（浜島書店）/ 『すらすら基本文法』（浜島書店）

『単元別漢字マスター』（学宝社）

単元・教材（１年生の学習内容：１４０時間）

	単元と学習の内容	学習のねらい（一部を示す）
前期	1 単元「学びをひらく」 オリエンテーション ・聞くということ ・桜蝶 ・お気に入りの一品を紹介する ・言葉と社会 1 言葉とコミュニケーション ・文法の小窓 1 言葉の単位	・国語学習の約束を確認し関心をもつ。 ・言葉をとおして自分と相手を理解する。 ・文学作品の構成や展開を描写をもとに理解する。 ・自分の考えを相手にわかりやすく説明する。 ・対面・非対面コミュニケーションについて特徴を理解し、コミュニケーション能力について考える。 ・言葉のさまざまなまとまりを理解する。
	2 単元「論理を知る」 ・自分の脳を知っていますか ・資料から得た根拠をもとに意見文を書く ・楷書で書こう（硬筆） ・言葉の小窓 1 日本語の音声 ・漢字の広場 1 漢字の部首 ・内容を整理して説明する	・文章の構成を捉え、要約に生かす。 ・資料を比較して共通点と相違点を見つけ、考えの中心を明確にして段落構成を考える。 ・正しい字形に注意しながら、作品を仕上げる。 ・日本語の音の特徴を理解する。 ・漢字の部首について理解を深める。 ・相手の反応を見ながら話す内容を工夫して伝える。
	3 単元「世界をひらく」 ・ベンチ ・全ては編集されている ・写真で「事実」を表現する ・漢字の広場 2 画数と漢字の字体 ・材料を整理して案内文を書く	・文章から情報を集める方法を身に付ける ・メディアリテラシーについて考える。 ・写真の特徴を理解し、多様な活用の仕方を考える。 ・画数と字体について理解を深める。 ・目的や意図を理解して案内文を書く。
	4 単元「情報を得る」 ・持続可能な未来を創るために ・森には魔法使いがいる ・文法の小窓 2 文の成分 ・根拠を明確にして意見文を書く ・広告の情報を考える	・持続可能な社会の実現に向けて、課題を発見する。 ・問いとその答えを見つけていく展開を捉えて読む。 ・文の成分の役割について理解する。 ・具体例や体験を根拠にして意見文を書く。 ・広告を見るときの観点を知り、特徴を理解する。
後期	5 単元「古典にふれる」 ・昔話と古典 ・物語の始まり ・故事成語 ・蜘蛛の糸	・古典にはさまざまな作品があることを知る。 ・物語を調べ、そのおもしろさを理解する。 ・故事成語を調べ、由来や意味を理解する。 ・近代の小説や物語を読む。
	6 単元「豊かに想像する」 ・河童と蛙 ・オツベルと象 ・随筆を書く ・言葉の小窓 2 日本語の文字 ・書きぞめを書こう	・場面と描写を結び付けて読む。 ・構成や展開、表現の効果について考えをもつ。 ・身近な経験をまとめて、叙述の仕方を考える。 ・日本語の文字の特徴を理解する。 ・大きさ、字形に気をつけて、配置良く書く。
	7 単元「関係を捉える」 ・子どもの権利 ・言葉と社会 2 イメージを言葉にする ・調べた内容を書く ・漢字の広場 3 漢字の音と訓	・経験と関連付けて読み、自分の考えをまとめる。 ・浮かんだイメージを図や短い単語でメモする。 ・自分の考えと比較しながら話を聞き、内容を捉える。 ・漢字の音と訓について理解を深める。
	8 単元「考えを確かめる」 ・言葉がつなぐ世界遺産 ・読み手を意識して報告文を整える ・文法の小窓 3 単語のいろいろ ・発言を結びつけて話し合う ・漢字の広場 4 熟語の構成	・問いと考え、事実と意見の関係を捉える。 ・読み手の立場に立って、文章を整える。 ・自立語と付属語など分類の基準を理解する。 ・話題を意識して、発言を結びつけて話し合う。 ・熟語の構成の基本的な型を知る。
	9 単元「表現を捉える」 ・四季の詩 ・少年の日の思い出 ・言葉の小窓 3 方言と共通語	・詩の題材を捉え、描かれたイメージを想像する。 ・語り手に注目して読み、考えを確かなものにする。 ・方言と共通語の特徴について知る。

社会科シラバス

1 中学校社会科の目標（平成 29 年告示中学校学習指導要領より）

社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。

2 社会科の観点の目標と評価の方法

観 点	評 価 の 観 点	評 価 方 法
○知識・技能	基本的な事項・事柄が知識として定着し、理解することとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめている。	定期テストや小テスト等
○思考力・判断力・表現力等	資料に基づいて多面的・多角的に考察し、判断するなど、社会的な見方、考え方の基礎を身に付けることができる。	評価資料の内容、定期テスト
○主体的に学習に取り組む態度	社会的事象に対して関心を持ち、意欲的に取り組むことができる。	自己評価や授業態度、提出物

A = 3 点
B = 2 点
C = 1 点
3つの観点別
評価の合計で
評定をつける

合計点	組み合わせの例	評定
9 点	AAA	5
8 点	AAB	4
5～7 点	AAC、ABB、ABC、ACC、BBB、BBC	3
4 点	BCC	2
3 点	CCC	1

3 社会の家庭学習のポイント

授業の流れを思い出しながら別のノートにまとめ直し、学習内容を整理する。その上で問題集に取り組み、できなかったところはもう一度教科書やノートに戻って復習をする。日頃から「整理」をこまめにしており、テスト前に問題を解いて定着度を確認する。地理は地図、歴史は年表、公民は憲法の条文やしくみ図が重要。地図や年表、しくみ図などはよく目につくところに貼っておくと良い。

4 使用教材

- 1 年 教科書・歴史資料・地理資料・地図帳・地理／歴史ワーク
- 2 年 教科書・歴史資料・地理資料・地図帳・地理／歴史ワーク・地形図（地形図は後日配付）
- 3 年 教科書・歴史資料・公民資料・歴史／公民ワーク

※ 2 年生は、地理・歴史ともに資料集は 1 年生のものを引き続き使用します。

《1年生の学習内容：105時間》

※ ○：地理

●：歴史

	学 習 項 目	学 習 の ね ら い
前 期	○世界のすがた	・地球儀や世界地図を活用し、世界の地理への興味・関心を高める。
	○日本の姿	・日本の国土の位置及び領域の特色と変化を世界的な視野から多面的、多角的に考察する。
後 期	○世界の人々の生活と環境	・人々の生活と環境とのかかわりや、様々な条件のもとで多様な生活を営んでいることを理解し、異なる文化を尊重する態度を身につける。
	●歴史のとらえかた	・歴史上の人物や出来事などについて調べ、時代区分や時代の移り変わりに気付く。
後 期	●古代までの日本 ・文明のおこりと日本の成り立ち	・国家が形成されていく過程のあらましを、東アジアとのかかわり、大和政権による統一を通してとらえる。
	・古代国家の歩みと東アジア世界	・大陸の文物や制度を積極的に取り入れながら国家のしくみが整えられ、天皇、貴族の政治が展開されたことを理解する。
後 期	○世界の諸地域 ・アジア	・「経済の成長」に関する学習テーマを設定し地域的特色を理解する。
	・ヨーロッパ	・「国家間の統合による変化」に関する学習テーマを設定し地域的特色を理解する。
後 期	・アフリカ	・「モノカルチャー経済」に関する学習テーマを設定し地域的特色を理解する。
	・北アメリカ	・「アメリカ合衆国を中心とした産業の発展」に関する学習テーマを設定し地域的特色を理解する。
後 期	・南アメリカ	・「開発の進展と環境問題」に関する学習テーマを設定し地域的特色を理解する。
	・オセアニア	・「アジアとの結びつき」に関する学習テーマを設定し地域的特色を理解する。
後 期	●中世の日本 ・武士の台頭と鎌倉幕府	・平安時代に生まれた武士がしだいに力をつけ、鎌倉幕府が成立し、その武家政権の特色について理解する。
	・東アジア世界とのかかわりと社会の変動	・武家政権の展開を理解させ、東アジア世界とのかかわりが中世の日本に及ぼした影響を考える。
後 期	・ヨーロッパ人との出会いと天下統一	・織田信長と豊臣秀吉による統一事業を理解させ、新しく生み出された近世社会の特色を考える。

【数学科】シラバス

1. 数学科の目標

中学校数学科においては、数量や図形などについての基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得し、これらを活用して問題を解決するために必要な数学的な思考力、判断力、表現力等を育むとともに、数学のよさを知り、数学と実社会との関連についての理解を深め、数学を主体的に生活や学習に生かそうとしたり、問題解決の過程を評価・改善しようとしたりするなど、数学的に考える資質・能力を育てる。

2. 数学の領域構成

数と式 (①正の数・負の数、文字の式、一次方程式 ②式の計算、連立方程式

③式の計算、平方根、二次方程式)

図形 (①平面図形、空間図形 ②図形の調べ方、図形と合同

③図形と相似、円の性質、三平方の定理)

数量関係 (①比例・反比例 ②一次関数 ③関数 $y = ax^2$)

データの活用 (①データの分布の傾向 ②データの分布の比較、確率 ③標本調査)

3. 評価の観点の目標と評価の方法

観 点	観 点 の 目 標	評価方法
知識・技能	数量や図形などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身につけるようにする。	・授業の様子 ・定期テスト・単元テストなどの結果
思考・判断・表現	数学を活用して事象を論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見だし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。	・授業の様子 ・定期テスト・単元テストなどの結果
主体的に学習に取り組む態度	数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を養う。	・授業の様子(発表発言など) ・提出物 ・自己評価、相互評価の資料等

○評価：上記3観点をA、B、Cの3段階で表す。

評定：上記の観点別学習状況の評価をもとにして、5段階(1～5)で表す。

4. 家庭学習のポイント

- ・復習はその日のうちに。教科書、ワークを活用し、確実に身につけよう。
- ・たくさんの問題に挑戦しよう。ワークや持参の問題集を繰り返し行おうとよい。
- ・得意な分野(例・計算や図形など)は、早く正確にできるように。
- ・苦手な分野は、教科書やワークのまとめをよく読み、基礎基本を確実に身につけよう。

5. 数学科よりお願い

- ・基礎・基本の定着状況を自ら把握できるように、全校一斉の数学検定を行います。自分の目標を見つけ、合格めざして頑張りましょう。
- ・「なぜ?」「どうして?」という疑問を大切に。さらに、「覚えることを少なく、覚えたことをいかに活用するか」を心掛け学習しましょう。
- ・道具や宿題など、忘れずに。
- ・単元ごとに冊子としてまとめ、提出してもらいます。ノートリフィルやプリントを無くさないようにしましょう。

6. 使用教材

- 教科書(「未来へひろがる 数学」啓林館)、ノート、ワーク
- 単元に応じて三角定規、コンパス、分度器、電卓

【1年生の学習内容】

	単 元 と 学 習 内 容	学 習 の ね ら い
前 期	1 正の数・負の数 ■正の数と負の数の意味 ■正の数と負の数の四則計算と意味と計算 ■数の集合と四則計算の可能性 ■素数の意味と積で表すこと	数の範囲を拡張して、計算の可能性をひろげ、数についての処理がいっそう手際よくできる。
	2 文字の式 ■文字を用いることの意義 ■文字を用いた式における乗法・除法 ■簡単な一次式の加法・減法 ■文字を用いた式による表現や読み取り ■不等式	文字を使って、数量や数量の間の関係を一般的にしたり、計算法則を簡潔に表したりすることを通して、文字を用いることのよさや必要性に気づく。また、表された式を読んだり、式を計算したりすることを通して、文字の式を利用するための基礎的な処理の方法を身につける。
	3 方程式 ■方程式などの意味 ■等式の性質と方程式 ■簡単な一元一次方程式の解法と利用 ■比と比例式	文字を含む等式から、文字の値を求める方法を理解し、これを用いることによって、実際の問題が形式的、能率的に処理できることを知り、さらにその方法を活用できる。
後 期	4 変化と対応 ■関数関係の意味 ■比例・反比例の意味 ■座標の意味 ■比例・反比例の特徴 ■比例・反比例の活用	具体的な事象の中にあるともなって変わる2つの数量に注目して、比例や反比例の関係を見だし、その変化や対応のようすを考察することを通して理解を深め、利用できる。
	5 平面図形 ■図形の基礎 ■線対称・点対称 ■基本的な作図とその利用 ■図形の移動 ■おうぎ形の弧の長さや面積	いろいろな平面図形について、観察、操作、実験を通して、図形に対する直観的な見方や考え方を深め、基礎的な知識・技能を習得して、それらを活用する能力を伸ばす。
	6 空間図形 ■空間における直線や平面の位置関係 ■空間図形の構成や表現 ■基本的な柱体、錐体の表面積と体積 ■球の表面積と体積	観察、操作、実験を通して、空間図形に対する直観的な見方や考え方を深めるとともに、空間図形の性質について論理的に考察する能力や、立体の計量についての能力を高める。
	7 データの活用 ■ヒストグラムや代表値の必要性和意味 ■ヒストグラムや代表値による資料の傾向の把握と表現 ■累積度数 ■相対度数と確率	集団事象について、目的に応じて資料を収集し、表やグラフに整理し、その資料の傾向を読み取る活用能力をのばすとともに、数の表現に関する理解を深める。

令和7年度 第1学年 理科 シラバス



1. 理科の目標

- ① 身近な自然や身のまわりの現象に進んで関わるができる。
- ② 疑問をもち、それを解決するという目的意識をもって観察・実験を行うことができる。
- ③ 科学的にものごとを考えて、それを説明できる能力を育てることができる。
- ④ 身近な自然や身のまわりの現象についてのきまりや規則に対する理解を深めることができる。

2. 評価の観点・評価の方法について

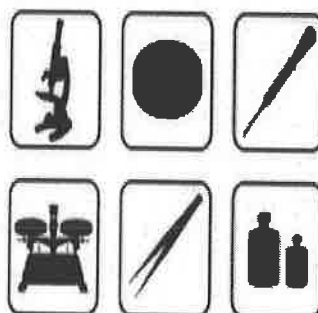
観点	評価の観点		評価方法
[知識・技能]	自然の事物・現象についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する基本操作や記録などの基本的な知識及び技能を身につけている。		・レポート(結果等) ・[章末・定期]テスト ・授業・実験観察方法
	第1分野	身近な物理現象、化学変化と原子・分子、運動とエネルギーなど	
	第2分野	いろいろな生物とその共通点、気象とその変化、地球と宇宙など	
[思考・判断・表現]	自然の事物・現象から問題を理解し、見通しをもって観察・実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。		・レポート(考察等) ・[章末・定期]テスト ・授業・実験の発表
	第1分野	身近な物理現象、化学変化と原子・分子、運動とエネルギーなど	
	第2分野	いろいろな生物とその共通点、気象とその変化、地球と宇宙など	
[主体的に学習に取り組む態度]	自然の事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。		・ノート ・ワークシート ・レポート ・授業の発言や態度 ・自己評価 ・ワーク
	第1分野	身近な物理現象、化学変化と原子・分子、運動とエネルギーなど	
	第2分野	いろいろな生物とその共通点、気象とその変化、地球と宇宙など	

○評価：上記3観点をA・B・Cの3段階で表す。

○評定：上記の観点別学習状況の評価をもとにして、1～5の5段階で表す。

3. 家庭学習のポイント

- ① 実験・観察や演示実験の前に内容を予習しておくことよい。
- ② 教科書を授業ノートやワークシート、レポート等を復習し、目的から考察までの内容を整理する。
- ③ 実験や観察を行ったときのレポート等は、その日のうちに書くようにするとよい。
- ④ 教科書の単元末の問題やワークの問題などできるだけ多くの問題を解き、授業及び実験の内容をより深める。



単元・教材（１年生の学習内容：105 時間）

学期	単元	学 習 内 容	学 習 活 動
前期	いろいろな生物とその共通点	第1章 生物の観察と分類のしかた 第1節 生物の観察 第2節 生物の特徴と分類 第2章 植物の分類 第1節 花のつくり 第2節 果実をつくらない花 第3節 葉や根のつくり 第4節 種子をつくらない植物 第5節 さまざまな植物の分類 第3章 動物の分類 第1節 身近な動物の分類 第2節 脊椎動物 第3節 無脊椎動物 第4節 動物の分類表の作成	・生物を観察するとき、どのような特徴に注目して、どのような方法で観察すればよいか考える。 ・生物を分類するとき、どのような特徴に注目して分類することができるか考える。 ・花のつくりにはどのような共通点があるか考える。 ・果実をつくらない植物には、果実をつくる植物と比べると、どのような特徴があるか考える。 ・植物を葉脈や根で分類するには、どのような特徴に注目すればよいか考える。 ・種子をつくらない植物のからだのつくりとふえ方には、どのような特徴があるか調べる。 ・植物を分類するときに注目する特徴を図や表にまとめる。 ・動物を分けるとき、どのような共通点と相違点に注目すればよいか考える。 ・脊椎動物はどのようなグループに分類できるか考える。 ・無脊椎動物は、からだにどのような特徴があり、どのように分類できるか考える。 ・どのような表や図をつくると、動物を適切に分類できるか考える。
	身のまわりの物質	第1章 身のまわりの物質とその性質 第1節 物の調べ方 第2節 金属と非金属 第3節 さまざまな金属の見分け方 第4節 白い粉末の見分け方 第2章 気体の性質 第1節 身のまわりの気体の性質 第2節 気体の性質と集め方 第3章 水溶液の性質 第1節 物質が水にとけるようす 第2節 溶解度と再結晶 第4章 物質の姿と状態変化 第1節 物質の状態変化 第2節 物質の状態変化と体積・質量の変化 第3節 状態変化が起こるときの温度とその利用	・物体が何という物質でできているかを見分けるには、どのような方法があるか考える。 ・金属と非金属との性質のちがいを調べる。 ・金属と非金属のちがいの実験を行い、その結果からちがいを見いだす ・さまざまな金属を見分けるには、どうしたらよいか考える。 ・見ただけでは見分けにくい粉末状の物質の種類を知るには、どのようにしたらよいか考える。 ・身のまわりの気体にはどのような性質があるか調べる。 ・気体の性質によって、気体の集め方はどのように変えたらよいか考える。 ・物質が水にとけるとは、どのようなことになるか考える。 ・水にとけている溶質をとり出すため、水を蒸発させる以外にどのような方法があるか調べる。 ・身のまわりの物質も水のように姿を変えるか考える。 ・物質が状態変化するとき、体積や質量はどうなるか調べる。 ・液体どうしが混じり合った混合物を分けるには、どのようにすればよいか調べる。
後期	身のまわりの現象	第1章 光の世界 第1節 物の見え方 第2節 光の反射 第3節 光の屈折 第4節 レンズのはたらき 第2章 音の世界 第1節 音の伝わり方 第2節 音の大きさや高さ 第3章 力の世界 第1節 日常生活のなかの力 第2節 力のはかり方 第3節 力の表し方 第4節 力のつり合い	・物体を見ることができるとき、光はどのように目に届いているか考える。 ・光が鏡などの物体で反射するとき、光はどのように進むか調べる。 ・光が透明な物体を通りぬけるとき、光はどのように進むか調べる。 ・凸レンズによる像のでき方には、どのような決まりがあるか調べる。 ・振動している物体から出ている音は、どのように伝わるか考える。 ・音の大きさや高さや音源の振動には、どのような関係があるか調べる。 ・力は、どのようなはたらきをするか考える。 ・ばねを引く力とばねののびには、どのような関係があるか調べる。 ・物体にはたらく力は、どのように表すことができるか考える。 ・2つの力が1つの物体にはたらくているのに物体が動かないとき、2つの力にはどのような関係があるか調べる。
	大地の変化	プロローグ 身近な地形や地層、岩石の観察 第1章 火をふく大地 第1節 火山の姿からわかること 第2節 火山の噴火によってふき出される物 第3節 火山の活動と火成岩 第4節 火山とともにくらす 第2章 動き続ける大地 第1節 地震のゆれの伝わり方 第2節 地震が起こるところ 第3節 地震に備えるために 第3章 地層から読みとる大地の変化 第1節 地層のなり立ち 第2節 堆積岩 第3節 地層や化石からわかること 第4節 大地の変動 第5節 身近な大地の歴史	・身近な地形や地層、岩石を観察し、その特徴を記録する。 ・マグマの性質と火山の形のどんな関係があるのか考える。 ・火山灰がどのような物でできているのか調べる。 ・火成岩の色やつくりについて調べ、ちがいがなぜ生じるか考える。 ・火山とともにくらすために、大切なことは何か考える。 ・震源で発生したゆれが、どのようにして伝わるか調べる。 ・地震は、どのようなところでどのようにして起こるか考える。 ・地震によって起こる被害を最小限におさえるためにはどのようなことが必要か考える。 ・れき、砂、泥がどのようにして地層をつくるか考える。 ・それぞれの堆積岩にどのような特徴があるか調べる。 ・地層や化石から、どのようなことがわかるか考える。 ・海底でできた地層が見られる山脈や山地は、どのような力でつくられるか考える。 ・地層から大地の歴史を知るには、どのようなことを調べてまとめればよいか考える。

【英語科】シラバス（１年）

1 学習の目標

- ① 英語学習の基本を学び、意欲的に学習に取り組むことができる。
 - ② 学習した内容を使って、身近な事柄を表現することができる。
 - ③ 初歩的な英語を聞いたり読んだりして、内容を理解することができる。
 - ④ 英語という言葉に興味を持ち、その使い方の基礎を理解し、運用することができる。
- また、英語学習を通して、その背景にある文化を理解することができる。

2 評価の観点と方法

次の３つの点についてそれぞれ３段階（Ａ・Ｂ・Ｃ）で評価する。

評価の観点		評価
ア 知識・技能	○コミュニケーションにおいて活用できる知識・技能を身に付けている。 ○外国語の学習を通じて、言語の働きや役割などを理解している。	発言、課題に対する取り組み、定期テスト、パフォーマンステスト、小テスト、等
イ 思考力・判断力・表現力等	○具体的で身近な話題について、互いの考えや気持ちなどを外国語で適切に伝え合っている。 ○聞いたり読んだりしたことなどを活用して、自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現している。	自己紹介、友だち紹介、定期テスト、授業中の表現活動、英作文、パフォーマンステスト、等
ウ 主体的に学習に取り組む態度	○他者を尊重し、外国語で聞いたり読んだりしたことを活用して、自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現しようとしている。 ○言語やその背景にある文化に対する関心を持って、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。	授業中の態度、授業中の挙手・発言、パフォーマンステスト、提出物の状況、等

3 学習のポイント

- ① Teacher's Talk や音源を繰り返し聞き、内容を推測しながら聞くことに慣れる。
- ② 新出単語やよく使う単語、表現を繰り返し発音したり使ったりし、繰り返し練習することによって定着を図る。
- ③ 新出文法についても、理解するだけでなく、それを使って自己表現する。
- ④ 習ったことを使ってやりとりをしたり、自分の気持ちや意見を発表したりする。

4 使用教材

- ・教科書 「Here We Go! ENGLISH COURSE １」（光村図書）
- ・副教材 マスターノート(明治図書)、ジョイフルワーク(新学社)、プリント用ファイル

5 年間の学習計画

学期	月	題材	主な学習内容
	4	教科書 UNIT 1. Here We Go 2. Club Activities 3. Enjoy the Summer 4. Our New Friend	Round1 Unit 1~8 ・授業での約束 ・アルファベットの読み書き ・フォニックス ・英語のあいさつ
	5	5. Hi, David! 6. Cheer Up, Tina 7. New Year Holidays in Japan	・自己紹介 〈Round1 の内容〉 文字を使わずに、音声とピクチャーカードで教科書の全ユニットの内容を大まかに理解する。

	8. Getting Ready for the Party	6	前期中間テスト	Round2 Unit 1~8 ・フォニックス ・音読みテスト ・パフォーマンステスト（自己紹介） 〈Round 2 の内容〉 文字と音との関係を確認しながら内容理解を進める。
		7		Round 3 Unit 1~8 ・パフォーマンステスト（ともだち紹介） ・単語テスト 〈Round 3 の内容〉 教科書の文字を見てたくさん読む。音の記憶が残っているうちに教科書の英文をノートに書き写す。
		9	前期期末テスト	Round 4 Unit 1~8 ・パフォーマンステスト ・単語テスト 〈Round 4 の内容〉 穴あき音読などの活動で、本文を頭の中に残す。
		10		
		11	後期中間テスト	Round 5 Unit1~8 ・パフォーマンステスト ・単語テスト 〈Round 5 の内容〉 教科書のイラストを見て、英語で説明する。自分の言葉で教科書のストーリーを仲間に伝える。教科書の表現で活用できるものはたくさん使う。
		12		
		1		
		2	後期期末テスト	
		3		

学習に対するワンポイントアドバイス

- とにかく授業が基本です。授業中は与えられた課題に集中して取り組みましょう。
- わからないことはすぐに英語担当の先生に質問をしましょう。そのままにしないことが大切です。
- 授業のあとは必ず復習し、内容を確実に深めましょう。内容を考えながら音読練習をすると効果的です。

【音楽科】シラバス

1 【音楽科の目標】

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成することを目指す。



各学年の目標

第1学年	
(1) 曲想と音楽の構造などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付けるようにする。 (2) 音楽表現を創意工夫することや、音楽を自分なりに評価しながら良さや美しさを味わって聴くことができるようにする。 (3) 主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しむと共に、音楽によって生活を明るく豊かなものにしていく態度を養う。	
第2学年及び第3学年	
(1) 曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付けるようにする。 (2) 曲にふさわしい音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながら良さや美しさを味わって聴くことができるようにする。 (3) 主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しむと共に、音楽によって生活を明るく豊かなものにし音楽に親しんでいく態度を養う。	

2 【音楽科の評価の観点及び評価・評定の方法】

観点項目	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	・曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。 ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。	・音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ、感じたこととの関わりについて考え、どのように表すかについて思いや意図をもったり、音楽を評価しながら良さや美しさを味わって聴いたり、表現している。	・音や音楽、音楽文化に親しむことができるよう、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
評価方法	・実技テスト ・授業態度 ・学習プリント ・定期テスト	・実技テスト ・授業態度 ・学習プリント ・定期テスト	・授業準備 ・授業態度 ・学習プリント ・定期テスト ・実技テスト
評価	十分満足できる A おおむね満足できる B 努力を要する C	十分満足できる A おおむね満足できる B 努力を要する C	十分満足できる A おおむね満足できる B 努力を要する C

※教科の目標に照らして、学期ごとに各観点到重みをつけて評定する場合もあります。

3 【音楽科の学習のしかた】

中学校の音楽では、生涯を通して音楽を愛好し、音楽活動の楽しさや喜びを得て、豊かな情操を養うことを目指しています。授業の内容は、表現及び鑑賞の活動に分けられます。

表現の活動

- 歌 う こ と … 一人で歌う独唱、みんなで同じ旋律を歌う斉唱、各パートに分かれてハーモニーを作り合う合唱などを行います。
- 演奏すること… リコーダーを中心とした楽器や日本の楽器などを使って、ひとりで演奏したり、グループアンサンブルや合奏をしたりします。
- 創作すること… 簡単な節づくりや、和音づけをしたり、イメージしたことを自由に音で表現することなどを行います。

鑑賞の活動

- 聴 く こ と… すすんで音楽を聴いて、それぞれのよさや美しさを感じ取り様々な音楽に親しむ活動を行います。

- ・別府中学校では、クラスごとの混声合唱の発表の場として、毎年10月末～11月頃に合唱コンクールを行っていますので、前期後半は表現活動の中の歌うことが中心になります。
- ・ピアノを習うなど、以前から音楽にかかわっていると、楽譜を読む力や、楽器の演奏の取りかかりはよいですが、中学校の音楽の活動の中でどのように取り組んでいるかが一番大切です。自分の持てる力を精一杯発揮して一生懸命取り組めるといいですね。

4 【音楽科の授業で必要なもの】

- ・教科書（音楽・器楽）
- ・合唱曲集
- ・ファイル
- ・筆記用具
- ・アルトリコーダー

5 【指導計画】

	1 年 (45 時間)	2 年 (35 時間)	3 年 (35 時間)
前 期	歌声をつくろう ・校歌 ・ We'll Find The Way ・その先へ ・夢の世界を 鑑賞 ・春 ・映画音楽から アルトリコーダーの基礎 ・リコーダー曲集より	歌声をみがこう ・明日を向いて ・道を歩けば ・サンタルチア 鑑賞 ・フーガ ト短調 ・交響曲第5番（運命） リコーダーアンサンブル ・リコーダー曲集より	日本 & 世界の愛唱歌に親しもう ・花 ・花の街 ・早春賦 ・帰れソレントへ ・Amazing Grace 鑑賞 ・ブルタバ（モルダウ） ・バレエについて リコーダーアンサンブル ・リコーダー曲集より
後 期	合唱コンクールに向けて ・学年合唱曲 ・各クラスの自由曲 日本歌曲に親しもう ・赤とんぼ ・浜辺の歌 鑑賞 ・魔王 ・日本の伝統音楽 ・アジアの民族音楽 アルトリコーダーの基礎 リコーダーアンサンブル 送る会、卒業式の合唱曲	合唱コンクールに向けて ・学年合唱曲 ・各クラスの自由曲 日本の歌の美しさを味わおう ・夏の思い出 ・荒城の月 鑑賞 ・歌劇「アイダ」 ・歌舞伎「勧進帳」 ギターの基礎 ・ギター曲集より 送る会、卒業式の合唱曲	合唱コンクールに向けて ・学年合唱曲 ・各クラスの自由曲 箏に親しもう ・さくらさくら 鑑賞 ・尺八曲 ・能 ・世界の諸民族の音楽 グループアンサンブル 送る会、卒業式の合唱曲

美術科を学ぼう



1. 美術科としての特色とは

たくさんの用具や素材を扱いながら、自分の思いを表現していく学習です。思いは人それぞれ違った形で表現されます。思いを表現するためには試行錯誤しながら多くのことを考えます。これらの活動を通して次の3点が美術科の教科性になっています。

- ① 美的、造形的表現・創造 ②文化・人間理解 ③心の教育

これら3点を押さえ、生徒の自己実現を図り、生涯にわたって美術を愛好していく心情とその資質や基礎的能力を育成することをめざしています。

2. 指導計画

(1) 週時間数 1・2・3年生 週1時間の授業 (ただし1年生はI期は週2時間。)

(2) 授業計画、内容

学 年	学 期	題材名	学習の内容
1	前	美術との出会い・・・オリエンテーション	見つめて感じて描いて・・・スケッチを勉強し、観察する姿勢や力を育てる。 文字が生み出すイメージ・・・レタリングを学び、楽しい文字のデザインをする。(ｽｸｯﾌﾞﾙ表紙) つなげて広がる模様の世界・・・つながる模様の仕組みを理解し、デザインする。
	後	暮らしを彩る土の造形・・・陶土の感触を楽しみながら焼き物の持つ造形的な良さを味わい、成形か焼成までの制作行程を理解し、制作する。 材料に命を吹き込む・・・身近な素材を試行合成し、自分の気持ちを投影した抽象画を制作する。 鑑賞・・・それぞれの作品に込められた思いや意図を感じ取る。	
2	前	学びの実感と広がり・・・オリエンテーション	瞬間の美しさを形に・・・モダンテクニックとデッサンを組み合わせ、心象風景を表現する。 自由な視点で風景を見つめる・・・視点や構図を工夫して、個性的な風景画を制作する。
	後	空間を彩る光のデザイン・・・光や影の特性を理解し空間に与える印象を創作する照明器具を制作する。 筆と水で多彩に表す・・・水墨画の技法を学び、濃淡や線の効果を考え、自由な発想で水墨画を制作する。 つくる・使う・材料を味わう工芸・・・材料の特性を生かし、使う場面や機能などを考えて工芸品を制作する。 鑑賞・・・それぞれの作品に込められた思いや意図を感じ取る。	
3	前	学びの探求と未来・・・オリエンテーション	仏像の姿に見る人々の祈り・・・修学旅行前に仏像彫刻の良さや美しさを学ぶ。 私自身を見つめて・・・今の自分の内面を見つめ、自画像で表現する。
	後	思いを込めた卒業記念品・・・使いやすさや使う人を考え、長く大切にできる箸を制作する。 ルネサンスが目指したもの・・・ルネサンス期の美術について学び、良さや美しさを鑑賞する。 イメージを追い求めて・・・彫刻作品が持つ形や材料の特徴をとらえ、篆刻の印面ともち手を制作する。 どこまで修復すべきか・・・文化財を通して、美術文化の継承と創造について考える。 動きを生かして印象的に・・・伝達の意図を考え、動画でコマーシャルを制作する。 社会に生きる美術の力・・・3年間の美術の学習を振り返って、付いた力を感じ卒業後の見通しを持つ。	

(3) 学習目標

第1学年 () 内は第2学年及び第3学年の学習内容を表しています。

- ① 楽しく(主体的に)美術の活動に取り組み美術を愛好する心情を培い、心豊かな生活を創造していく意欲と態度を育てます。
- ② 対象を深く観察する力(深く見つめる力)、感性や想像力を高め(独創的・総合的な見方や考え方を培い)、豊かに発想し構想する能力や基礎的技能を身につけ、多様な表現方法や造形要素に関心を持ち(自分の表現方法を工夫し)、創意工夫し美しく表現する能力を育てます。
- ③ 自然や美術作品(文化遺産)などについての基礎的な理解や見方を広げ(心豊かに生きることと美術との関わりに関心を持ち)、良さや美しさなどを感じ取る鑑賞の能力を育てます。

3. 美術の学習の仕方

(1) 1学年

美術表現に関する基礎知識と基本技術を習得し作品を制作する。また、美術作品の鑑賞の基礎を学ぶ。

(2) 2学年・3学年

多様な美術表現の技術を生かした作品を制作する。また、心の内面を見つめ、自分の思いを感性豊かな表現で作品制作を行う。多様な美術作品の見方を学ぶ。

4. 授業の受け方

表現や鑑賞の活動(授業)を通して、創造活動の喜びが味わえるように、自分の思いを大切にして最後まで粘り強く、苦心しながら試行錯誤を繰り返して作品の完成をめざす。

5. 美術科の評価の観点・方法

(1) 評価の観点

知識・技能、思考力・判断力・表現力等、主体的に学習に取り組む態度 の3観点で評価する。

(観点別学習状況の評価はA・B・C、評価は5段階で評価)

(2) 評価の方法 (それぞれの題材によって評価の方法は異なることがあります)

〔知識・技能〕

小テストや鑑賞、授業中の発表や制作の完成度、平面や立体での美術的な技能で評価します。

〔思考力・判断力・表現力〕

アイディアスケッチの様子、制作材料、用具、技法の工夫、授業中の制作の様子、途中や完成作品などから判断します。

〔主体的に学習に取り組む態度〕

制作への取り組み、完成作品の完成度、授業中の制作の様子や片付け、鑑賞での発表、プリントの内容などで評価します。

【保健体育科】シラバス 1年

1 【保健体育科の目標】

- ① 各種の運動の特性に応じた技能等及び個人生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な技能を身に付けるようにする。
- ② 運動や健康についての自他の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
- ③ 生涯にわたって運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養う。

2 【保健体育科の評価観点と評価の方法】

観点	評価の観点	評価・方法
知識・技能	① 各運動の特性や成り立ち、技の名称や行い方、伝統的な考え方を知っている。 ② 各領域に関連して高まる体力、健康・安全の留意点についての具体的な方法について理解できている。 ③ 運動やスポーツの多様性、運動やスポーツの意義や効果と学び方についての考えを理解できている。 ④ 各領域の運動の特性に応じた基本的な技能が身に付いている。 ⑤ 保健分野について個人生活を中心として科学的に理解しているとともに、基本的な技能を身に付けている。	・提出物では、学習ノート、学習カードなど ・定期テスト ・学習ノート ・学習カード ・技能テスト ・試合、発表会 ・教師による観察
思考・判断・表現	① 自己やチームの課題を発見し、課題解決に向けて運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫できる。 ② 自己の考えや仲間の考えたことを他者に伝えることができる。	・学習ノート ・学習カード ・教師による観察
主体的に学ぶ態度	① 各単元に関心を持って、進んで取り組み、楽しもうとする。 ② 互いに協力し、練習や競技、試合、発表を行おうとする。 ③ 授業の約束や競技のルールを守り、「公正な態度」で活動することができる。 ④ 自分や仲間の健康や、活動場所・用具・服装の安全を確かめて活動しようとしている。	・教師による観察 ・試合、発表会 ・評価カード ・学習カード

A→「設定した評価規準」が十分に達成できる。

B→「設定した評価規準」がおおむね達成できる

C→「設定した評価規準」に対し、やや不十分である。

・評価のつけ方について

	知・技	思考・判断・表現	学ぶ	評価 5段階
観点別 評価	A	A	A	5
	・	・	・	4
	・	・	・	3
	・	・	・	2
	C	C	C	1

評価	評価の組み合わせ
5	AAA
4	AAB
3	ABB ABC ACC BBB BBC
2	BCC
1	CCC

3 【保健体育科学習の約束】

①チャイムまでに、指定の場所に集合する。

②服装をしっかりと整える。（体育着は、ハーフパンツの中に入れる。髪の毛が長い人はゴムで縛る。）

③忘れ物をしない。（・ハチマキ・教科書・実技の本・ファイル・保健学習ノート・筆記用具など）

④号令に合わせ、大きな声で元気にあいさつをする。

⑤やむをえず、見学の際は、親の承認を必ず見せること。

（やりとり帳、またはメモ用紙等を書いてくる。）

※見学でもカードの記入・用具の準備や片づけ・その他やれる手伝いを進んでやること。

※ジャージは11月～3月まで着用可。それ以外は、教室で脱いで学習の場に行くこと。

4 【学習内容とねらい】

運動領域	種目	学習のねらい
体づくり運動	体ほぐしの運動 体力を高める運動	自分の体に関心を持ち、体力に応じた課題を持って体ほぐしをしたり、体力を高めたりします。
陸上競技	リレー・短距離走	自分の能力に応じて目標を持ち、競技したり記録を高めたりできるようにします。
ダンス	創作ダンス	リズムに乗って体を動かしたり、感じを込めて踊ったりするとともに、作品の発表や鑑賞ができるようにします。
球技Ⅰ・Ⅱ	バレーボール ハンドボール	自分の能力やチームの課題に応じて運動の技能を高め、作戦を立て攻防のあるゲームができるようにします。
器械運動	マット運動	自分の能力に応じて運動の技能を高め、技が円滑にできるようにします。
武道	柔道	礼儀作法や、基本技を覚え、お互いに協力して基本練習ができるようにします。
陸上競技	長距離走	自分の能力に応じて目標を持ち、競技したり記録を高めたりできるようにします。
球技Ⅲ	ソフトボール バスケットボール	自分の能力やチームの課題に応じて運動の技能を高め、工夫してゲームができるようにします。
保健	「健康な生活と病気の予防」「心身の発達と心の健康」について、考えたり、調べたりしながら、正しい知識を身に付けられるようにします。	
体育理論	「スポーツの多様性」について、考えたり、調べたりしながら、正しい知識を身に付けられるようにします。	

第1学年 技術・家庭科(技術分野)シラバス

1 技術分野の目標

技術の見方・考え方を働かせ、ものづくりなどの技術に関する実践的・体験的な活動を通して、技術によってよりよい生活や持続可能な社会を構築する資質・能力を育成することを目指す。

2 学習内容

題材名	題材目標	主な学習内容
生活を豊かにする木材製品を作ろう	・技術と私たちの生活との関わりを理解する。 ・作品の設計から完成までの見通しを持つ。 ・製作のための材料の性質とその適切な利用方法を理解する。 ・構想図の描き方を理解する。 ・材料に適した工具の仕組みや安全で効率の良い使用方法を考える。 ・設計に合った材料取りをする。 ・適切な手順と方法で製作する。 ・仕上げの仕方を理解し、丁寧な作業法を考える。 ・これからの材料と加工の技術	・技術と私たちの生活 (技術の進歩と豊かな生活) ・生活を調査しよう (製作品の構想・機能・構造) ・材料の特徴と加工方法を知ろう (材料(木材、金属、プラスチック)の選択) (構想の表示) (キャビネット図と等角図) (材料に適した工具の選択と安全な使用法) (効率の良い材料取り) (部品加工、組み立て) (塗装、仕上げ) ・材料と加工の技術の振り返り ・材料と加工の技術と私たちの未来 (環境保全と省エネルギーで生活の見直し) ・文書処理ソフトを用いて作成
ラディッシュを栽培しよう	・生物の育成に適する条件と、生物の育成環境を管理する方法を知る。 ・目的とする生物の育成計画を立て、生物の栽培又は飼育ができる。 ・生物育成に関する技術の適切な評価・活用について考える。 ・これからの生物育成の技術	・生物育成(作物・動物・水産生物・森林) ・栽培計画・フローチャート ・評価・活用 ・生物育成の技術の振り返り ・生物育成の技術と私たちの未来

3 評価の方法

- (1) 授業中の取り組み
- (2) 作業中の様子
- (3) 提出物
- (4) 定期テスト

評価の観点		評価方法
知識・技能	・知識及び技能を習得している。 ・すでに習得している知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で概念として理解したり、技能を習得したりしている。	・ペーパーテスト ・知識や技能を用いた発表
思考・判断・表現	・知識及び技能を活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けている。	・論述やレポートの作成、発表、話し合い、作品の制作や表現等 ・ポートフォリオ
主体的に学習に取り組む態度	・主体的に学習に取り組もうとしている。 ・粘り強い取組を行おうとしている。自らの学習を調整しようとしている。 ※「知識・技能」や「思考・判断・表現」の観点の状況を踏まえた上で評価をします。	・ノートやレポート ・授業中の発言 ・教師による行動観察

4 授業や家庭学習について

- (1) 何事に関しても興味関心を持とう。
- (2) グループの中で積極的に発言・行動し、活発な授業を行おう。

技術・家庭科(家庭分野)シラバス

1【技術・家庭科の目標】

生活に必要な基礎的な知識と技術の習得を通して、生活との関わりについて理解を深め、進んで生活を工夫し想像する能力と実践的な態度を育てる。

2【家庭分野の目標】

衣食住などに関する実践的・体験的な学習活動を通して、生活の自立に必要な基礎的な知識と技術を習得するとともに、家庭の機能について理解を深める。
これからの生活を展望して、課題をもって生活をよりよくしようとする能力と態度を育てる。

3【家庭分野の領域】

- A 家族・家庭生活
- B 食生活・衣生活・住生活
- C 消費生活・環境

4【家庭分野の評価の観点の目標と評価の方法】

観点	観点の目標	評価の方法
知識・技能	家族・家庭の基本的な機能について理解し、生活の自立に必要な家族・家庭、食生活、衣生活、住生活、消費や環境などについての知識を理解しているとともに、それらにかかる技能を身につけている	定期テスト 実技テスト 製作物の取り組み 実習の取り組み等
思考・判断・表現	これからの生活を展望し、家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想する。またそれらを実践し、評価、改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身につけている	ノート、レポート等の提出物 授業中の発言等
主体的に学習に取り組む態度	興味・関心・疑問を大切にして、課題に取り組み、家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現にむけて、課題の解決に主体的に取り組んだり振り返って改善し、生活を工夫し、創造し、実践しようとしている	授業中の発言、態度 ノート、レポート等の提出物 実習の取り組み等

5【評定】

上記3観点の観点別学習状況の評価(A・B・C)を基にして、5段階で評定を表す。

技術・家庭科(家庭分野)からのお願い

学習したことを家庭で実践する機会があると生活の技術が向上します。
お手伝いは学習したことを家庭で実践する良い機会です。始めからうまくはできませんが、努力を褒めて、励まして下さい。生活の技能が向上し、自立を促します。

1年生の家庭分野学習内容（35時間）

題材名	学習の内容	学習のねらい
自分の成長と家族・家庭	自分の成長と家族について知る 家庭のはたらきと家庭の仕事について考える	・授業への見通しをもち、学習への意欲を高め、目標をもたせる ・家族・家庭生活、食生活・衣生活・住生活、消費生活・環境など、生活の自立に必要な学習の見通しをもたせる ・自分の成長と家族や家庭生活とのかかわりを理解させる ・家族・家庭の機能及びそれを支える仕事や社会のしくみについて理解させる
食生活	健康と食生活 ①人間にとっての食事 食事の役割 食習慣と健康の基本 ②食品と栄養素 食品と栄養素 栄養素のはたらき ③中学生に必要な食事 発達と必要な栄養 栄養バランス ④日常食の調理 食品と調理 生鮮食品の選択と保存 肉の特徴と調理 魚の特徴と調理 野菜の特徴と調理 加工食品の選択と保存 ⑤献立づくり 1日分の献立	・食事の役割について理解し、健康に良い食習慣と体づくりの3つの基本について学び、規則正しい食事の重要性を理解させる ・食品は栄養学的な特質により、食品群に分類し、五大栄養素の体内での働きを理解しさせる ・中学生の身体的特徴、必要な栄養を理解させる 1回の食事を目で見て栄養バランスを判断でき、自分の食生活に生かせるようにする ・調理の意義を理解し、技術を身に付けさせる ・生鮮食品・加工食品の特徴を理解し、選択保存できるよう、知識を学習させる ・調理実習では調理に必要な手順や時間を考え、計画を立てて行い、調理、会食、片付け、実習後の評価を学習させる ・肉・魚・野菜の特徴や取り扱い方を理解させる ・1回の食事を用意することができるように工夫して調理ができるようにする

第1学年「道徳」シラバス

- 1 【担当者】 各学年担当を原則とする。
- 2 【道徳教育とは】 人間が本来持っているよりよく生きたいという願いや、よりよい生き方を求め実践する人間の育成を目指し、その基盤となる道徳性を養う教育活動
- 3 【道徳の目標】 人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を家庭、学校、その他の社会における具体的な生活の中に生かし、豊かな心を持ち、伝統と文化を尊重し、それらを育んできた我が国と郷土を愛し、個性豊かな文化の創造を図るとともに、公共の精神を尊び、民主的な社会及び国家の発展に努め、他国を尊重し、国際社会の平和と発展や環境の保全に貢献し未来を拓く主体性のある日本人を育成するため、学校の教育活動全体を通じて道徳的な心情、判断力、実践意欲と態度などの道徳性を養うこと
- 4 【指導場面】 道徳の時間（週1時間）をはじめ各教科、総合的な時間及び特別活動のそれぞれの特質に応じて行う。
- 5 【道徳の時間における指導内容】 *道徳は、年間を通して文章による評価があります。
 - A 主として自分自身に関すること
 - (1) 自律の精神を重んじ、自主的に考え、判断し、誠実に実行してその結果に責任をもつこと
 - (2) 望ましい生活習慣を身に付け、心身の健康の増進を図り、節度を守り節制に心掛け、安全で調和のある生活をする
 - (3) 自己を見つめ、自己の向上を図るとともに、個性を伸ばして充実した生き方を追求すること
 - (4) より高い目標を設定し、その達成を目指し、希望と勇気を持ち、困難や失敗を乗り越えて着実にやり遂げること
 - (5) 真実を大切に、真理を探究して新しいものを生み出そうと努めること
 - B 主として人との関わりに関すること
 - (6) 思いやりの心をもって人と接するとともに、家族などの支えや多くの人々の善意により日々の生活や現在の自分があることに感謝し、進んでそれに応え、人間愛の精神を深めること
 - (7) 礼儀の意義を理解し、時と場に応じた適切な言動をとること
 - (8) 友情の尊さを理解して心から信頼できる友達をもち、互いに励まし合い、高め合うとともに、異性についての理解を深め、悩みや葛藤も経験しながら人間関係を深めていくこと
 - (9) 自分の考えや意見を相手に伝えるとき、それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなものの見方や考え方があることを理解し、寛容の心をもって謙虚に他に学び、自らを高めていくこと
 - C 主として集団や社会との関わりに関すること
 - (10) 法やきまりの意義を理解し、それらを進んで守るとともに、そのよりよい在り方について考え、自他の権利を大切に、義務を果たして、規律ある安定した社会の実現に努めること
 - (11) 正義と公正さを重んじ、誰に対しても公平に接し、差別や偏見のない社会の実現に努めること
 - (12) 社会参画の意識と社会連帯の自覚を高め、公共の精神をもってよりよい社会の実現に努めること
 - (13) 勤労の尊さや意義を理解し、将来の生き方について考えを深め、勤労を通じて社会に貢献すること
 - (14) 父母、祖父母を敬愛し、家族の一員としての自覚をもって充実した家庭生活を築くこと
 - (15) 教師や学校の人々を敬愛し、学級や学校の一員としての自覚をもち、協力し合ってよりよい校風をつくるとともに、様々な集団の意義や集団の中での自分の役割と責任を自覚して集団生活の充実を努めること
 - (16) 郷土の伝統と文化を大切に、社会に尽くした先人や高齢者に尊敬の念を深め、地域社会の一員としての自覚をもって郷土を愛し、進んで郷土の発展に努めること
 - (17) 優れた伝統の継承と新しい文化の創造に貢献するとともに、日本人としての自覚をもって国を愛し、国家及び社会の形成者として、その発展に努めること
 - (18) 世界の中の日本人としての自覚をもち、他国を尊重し、国際的視野に立って、世界の平和と人類の発展に寄与すること
 - D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること
 - (19) 生命の尊さについて、その連続性や有限性なども含めて理解し、かけがえない生命を尊重すること
 - (20) 自然の崇高さを知り、自然環境を大切にすることの意義を理解し、進んで自然の愛護に努めること
 - (21) 美しいものや気高いものに感動する心を持ち、人間の力を超えたものに対する畏敬の念を深めること
 - (22) 人間には自らの弱さや醜さを克服する強さや気高く生きようとする心があることを理解し、人間として生きること喜びを見いだすこと
- 6 【使用教材】 新しい道徳1（東京書籍） 彩の国の道徳 『自分をみつめて』、『未来に生きる』
（埼玉県教育委員会） 道徳ポートフォリオ

主題名一覧表(第1学年)

※郷土・偉人教材は、学年の実態に応じ、内容項目の近い主題と入れ替え、指導する。

学期	月	週	主題名	内容項目	教材名	出典
前期	4	2	新しいものを生み出すときに	A(5) 真理の探究、創造	「どうせ無理」という言葉に負けない	新しい道徳 東京書籍
		3	公共の精神とは	C(12) 社会参画、公共の精神	本が泣いています	新しい道徳 東京書籍
		4	挨拶で心をつないで	B(7) 礼儀	朝市の「おはようございます」	新しい道徳 東京書籍
	5	2	誰に対しても公正な社会を実現するために	C(11) 公正、公平、社会正義	いじめに当たるのはどれだろう	新しい道徳 東京書籍
		3	自ら善悪の判断をするために	A(1) 自主、自律、自由と責任	傍観者でいいのか	新しい道徳 東京書籍
		4	相手を認めるには	B(9) 相互理解、寛容	風評被害	新しい道徳 東京書籍
	6	1	安全な生活のために	A(2) 節度、節制	山に来る資格がない	新しい道徳 東京書籍
		2	情報モラルと友情について	B(8) 友情、信頼	SNSに友達への悪口を書くと	新しい道徳 東京書籍
		3	誇りを持って働くために	C(13) 勤労	新しいプライド	新しい道徳 東京書籍
		4	住みよい社会を実現するための決まりとは	C(10) 遵法精神、公德心	父の手作りのベンチ	新しい道徳 東京書籍
	7	1	世界の中で生きていくには	C(18) 国際理解、国際貢献	山岳民族の文化を守る	新しい道徳 東京書籍
		2	思いやりとは	B(6) 思いやり、感謝	見えない親切	新しい道徳 東京書籍
後期	9	1	自分のいのちを見つめて	D(19) 生命の尊さ	いのちって何だろう	新しい道徳 東京書籍
		2	かけがえのない命のために	D(19) 生命の尊さ	決断！ 骨髄バンク移植第一号	新しい道徳 東京書籍
		3	「命を守る」ーいざというときに備えるために	D(19) 生命の尊さ	夕暮れどきの避難	新しい道徳 東京書籍
		4	のびのびと個性を発揮できる集団に向かって	C(15) よりよい学校生活、集団生活の充実	金賞を目指して	新しい道徳 東京書籍
	10	1	お互いを理解するということは	B(9) 相互理解、寛容	私はここにいるー倉橋香衣	新しい道徳 東京書籍
		2	調和のある生活を送るために	A(2) 節度、節制	よごれた教科書	新しい道徳 東京書籍
		3	異なるタイプの人に接して	B(8) 友情、信頼	出会いーアンドロイドと不気味の谷	新しい道徳 東京書籍
		4	自分で判断し行動するために	A(1) 自主、自律、自由と責任	裏庭での出来事	新しい道徳 東京書籍
	11	1	未来のふるさとを考えるために	C(16) 郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度	ぼくのふるさと	新しい道徳 東京書籍
		2	その人が本当に望んでいることは	B(6) 思いやり、感謝	思いやりの日々	新しい道徳 東京書籍
		3	誰もが気持ちよく過ごせる社会を目指して	C(10) 遵法精神、公德心	ごみ箱をもっと増やして	新しい道徳 東京書籍
		4	心の弱さを乗り越える強さとは	D(22) よりよく生きる喜び	銀色のシャープペンシル	新しい道徳 東京書籍
	12	1	公平に接するとは	C(11) 公正、公平、社会正義	私の「ふつう」と、あなたの「ふつう」	新しい道徳 東京書籍
		2	自然と共生するには	D(20) 自然愛護	NHK番組「ココロ部！」ぼくらの村の未来	新しい道徳 東京書籍
		3	家族の思いに触れて	C(14) 家族愛、家庭生活の充実	靴	新しい道徳 東京書籍
	1	2	守り伝える日本の心とは	C(17) 我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度	古都の雅、菓子的心	新しい道徳 東京書籍
		3	社会の一員として	C(12) 社会参画、公共の精神	震災の中で	新しい道徳 東京書籍
		4	いきいきと輝いて働くには	C(13) 勤労	「看護する」仕事	新しい道徳 東京書籍
	2	1	自然の力と向き合って	D(21) 感動、畏敬の念	火の島	新しい道徳 東京書籍
		2	自分との付き合い方を考えるために	A(3) 向上心、個性の伸長	自分の性格が大嫌い！	新しい道徳 東京書籍
		3	苦しみの中から前に進む勇気を持つために	A(4) 希望と勇気、克己と強い意志	詩画にあしたをたくしてー星野富弘	新しい道徳 東京書籍
	3	1	心に郷土を刻むために	C(16) 郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度	郷土を彫る	新しい道徳 東京書籍
		2	自分に恥じない、誇り高い生き方とは	D(22) よりよく生きる喜び	35 いくつかのバイオリン	新しい道徳 東京書籍
郷土・偉人教材			時と場をわきまえた言動を考えよう	C(10) 遵法精神、公德心	マナーは考えなくていいのか	彩の国の道徳『自分をみつめて』7
			人間らしい心の営みー「思いやり」ー	B(6) 思いやり、感謝	母の誘い	彩の国の道徳『自分をみつめて』8
			たがいに励まし合い、高め合い、協力を惜しまないー真の友情ー	B(8) 友情、信頼	仮入部	彩の国の道徳『自分をみつめて』9
			「家族」って何だろう？	C(14) 家族愛、家庭生活の充実	何だっけいいんだあ	彩の国の道徳『自分をみつめて』24
			充実した生き方を求めて	A(3) 向上心、個性の伸長	男らしさ女らしさ、自分らしさ	彩の国の道徳『未来に生きる』

令和 7 年度特別活動シラバス

1. 特別活動とは

学級活動、生徒会活動、学校行事の 3 つで構成されている。これらの活動を通して、好ましい人間関係を形成するために必要な能力や態度、所属する集団の向上に努めようとする態度、社会の一員としての自覚と責任ある態度、人間としての生き方を探求し自己を生かす能力や態度などを養う教育活動のことを指す。

2. 目標

望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的実践的な態度を育てるとともに、人間としての生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養う。

3. 学級活動の目標と内容

目標 学級活動を通して、望ましい人間関係を形成し、集団の一員として学級や学校におけるよりよい生活づくりに参画し、諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度や健全な生活態度を育てる。

学級活動の 3 つの内容

- (1) 学級や学校の生活づくり
- (2) 適応と成長及び健康安全
- (3) 学業と進路

ねらい

学級活動は、各学級を単位として、学級や学校生活への適応を図るとともに、その充実と向上、当面する諸課題への対応及び健全な生活態度の育成に資することをねらいとする。

学級活動とは

- (1) 学級を単位として行われる生徒の自主的、実践的な活動である。
- (2) 学級を場として、学級や学校の生活への適応を図る活動である。
- (3) 学級生活を基盤に、集団や社会の一員としての望ましい資質や能力・態度を育てる活動である。
- (4) 当面する諸課題の解決を通して生徒自らが自己指導能力を養う活動である。
- (5) 特別活動における人間としての生き方に関する指導が行われる中心的な活動の場である。

1年生の学習内容

		活動計画	内 容
前 期	4	・中学生になったの抱負 ・学級目標をつくろう ・学級の組織をつくり、係・委員会等を決定しよう	適応と成長及び健康安全 学級や学校の生活づくり ”
	5	・楽しく充実した林間学校にしよう ・学習方法、個人目標を考え計画表をつくろう ・学級や学年の諸問題を解決しよう	学級や学校の生活づくり 学業と進路 学級や学校の生活づくり
	6	・生徒総会に積極的に参加しよう ・話し合い活動のルール、マナーを知ろう ・神川林間学校に向けて準備しよう。	学級や学校の生活づくり ”
	7	・充実した夏休みにしよう ・自己の生き方について考えよう	適応と成長及び健康安全 学業と進路
	8	・学校内外^{ないがい}における安全について考えよう	適応と成長及び健康安全
	9	・みんなの力で体育祭を成功させよう	学級や学校の生活づくり
		・前期の学級生活を振り返ろう ・後期の生活を考えよう ・後期の係等、組織を決定しよう	適応と成長及び健康安全 学級や学校の生活づくり 学級や学校の生活づくり
	10		学級や学校の生活づくり
	11	・友達のよさを知ろう ・学習上の問題点や悩みを解決しよう	学級や学校の生活づくり 学業と進路
	12	・将来に向けての進路計画について考えよう ・思春期の心と体の健康について考えよう ・充実した冬休みにしよう	学業と進路 適応と成長及び健康安全 学級や学校の生活づくり
後 期	1	・男女共同参画社会^{さんかく}について考えよう ・新年の目標を考えよう ・働くことと生きがいについて考えよう	適応と成長及び健康安全 ”
	2	・心の健康について学ぼう ・1年間を振り返って	学業と進路 適応と成長及び健康安全 学級や学校の生活づくり
	3	・春休みの過ごし方^すを考えよう	学級や学校の生活づくり

令和7年度 総合的な学習の時間 年間指導計画

熊谷市立別府中学校

1年テーマ「地域・環境」(50時間)

		単元	○学習活動 ・具体的な活動例	指導上の留意点
4	5	16	学び方を知ろう ○オリエンテーション ・中学校の総合的な学習の時間のねらい、学習内容、学習方法等について知る。 ○ベース学習に取り組む ・学校施設・備品等の利用方法を学ぶ。 ・課題の設定方法・調べ方、まとめ方、発表方法等を学ぶ。 ○NIEに取り組む(通年) ・文を読む力、書く力を養う。 ・世の中のことを知る。 ・情報を集める、まとめる、提示する力を養う。 ・聞く人に分かりやすく説明する、発表する力を養う。	・学年全生徒を対象に、ねらい、内容、学習方法等を映像・画像などを利用して過去の研究例を例示しながら説明する。 ・学校の施設の利用の仕方を説明する。
6				・テーマ設定について過去の事例や資料を提供し、生徒の視野を広げる。
7				・情報収集の仕方を例示する。 ・調査・収集した資料をまとめ、俳句や写真を取り入れながらパワーポイントにまとめさせる。パワーポイントにまとめることは初めてなので丁寧に指導する。 ・意見交換や質疑応答の機会を設ける。
9	10	26	ふるさと別府から広めよう ○ふるさと Beppu セミナー① 【課題設定】 ・地域(別府地区)で自分たちができることは何かを話し合い、研究テーマを決定する。 ・研究グループをつくり、研究計画をたてる。 【情報の収集】 ・現地調査や実習などを行う。 - 別府沼観察7月 - 出前授業の実施12月等 ・参考文献等で調べ学習を行う。 ・中間報告会をする。 【整理・分析】 ・情報を種類ごとに分類して整理する。 ・個人で新聞にまとめる。 ・プレゼンテーションの準備に取り組む。 【まとめ】 ・発表会を行う。 ・自己評価・相互評価を行う。	・小学校での学習を想起し、自分たちでできる活動を話し合わせる。 ・別府沼公園や近郊の駅などに出かけてボランティア活動を行う。 ・連想マップづくりなどの発想を磨く活動を通して課題の設定に取り組ませる。 ・学び方・ものの考え方、表現方法を自己の研究に取り入れられるようにする。 ・調査、収集した資料をまとめ、写真やグラフを取り入れながら新聞を作成し、自然や文化への関心を深めさせる。 ・プレゼンテーションにまとめ、自分にできることを考え、行動できるようにする。
11				・情報収集の仕方を例示する。
12				
1				
2				
3	8	働く人々から学ぼう	○働く人々から学ぼう ・働くことの意義について考える。 ・身近の働く人にインタビューをし、レポートにまとめ、発表する。 ・職業調べをし、ポスターセッションを行う。	・学習のねらい、内容を確認する。 ・2年生の職場体験学習に向けて働くことの意義や目的、職業に就くことについてじっくりと考えさせる。 ・自己の適性や生き方を考えることができるようにする。

別府中 当たり前の20ヶ条

- 1 あいさつは 先にするのが 当たり前
- 2 時間は 守って生活するのが 当たり前
- 3 授業中は 真剣に受けるのが 当たり前
- 4 清掃は きれいに終了するのが 当たり前
- 5 食事は きれいに食べるのが 当たり前
- 6 服装は 正しく着るのが 当たり前
- 7 約束は 守って行動するのが 当たり前
- 8 間違いは すぐに訂正するのが 当たり前
- 9 ありがとう・ごめんなさいを 素直に言えるのが 当たり前
- 10 友だちは 大切にすることが 当たり前
- 11 朝ご飯は しっかり食べるのが 当たり前
- 12 呼ばれたら 「はい」と返事が 当たり前
- 13 部活動 がんばることが 当たり前
- 14 困っていたら 優しくするのが 当たり前
- 15 悪いこと 悪いと言えるのが 当たり前
- 16 良いことは 進んでやるのが 当たり前
- 17 持ち物は 必ず確認するのが 当たり前
- 18 悩んだら 人に相談するのが 当たり前
- 19 いじめは 絶対しないぞ 当たり前
- 20 嫌なこと 誰もが同じだ 当たり前





別府小・中の道標^{みちしるべ}



1 一生懸命に勝る“おしゃれ”はない。

本物の“おしゃれ”は、髪を染めたり、着飾ったりすることではありません。物事に真剣に取り組む姿こそが最高の“おしゃれ”です。
「時を守り、場を清め、礼を正す」1つ1つを一生懸命にやり抜き、児童生徒が自身の成長を実感できる環境をつくります。

2 「違い」×「違い」＝「創造 (create)」

「自分の世界」だけが全てではありません。世界には「違い」が溢れています。人にはそれぞれの歴史があり、考え方も十人十色。自分では気付かなかったものの見方や考え方を謙虚に学び、「違い」を自分自身の成長に繋げることができる児童生徒を育てます。

3 膝を交えて子供の未来を語る。

子育てにおける課題は年々、複雑化・多様化しています。そのような課題を乗り越えるには、学校・家庭・地域が三位一体となることが重要であり、お互いの強みを生かし、お互いを補完しながら子供たちをサポートすることが理想です。良いことも良くないことも、共に伝えあい、共に考え、学校・家庭・地域の信頼関係を築きます。

★私たち別府小学校・別府中学校の教職員は3つのスクールポリシーを共有し、9年間の継続した教育活動を実践します。

